

# 平成21年3月期第2四半期 決算説明会

平成20年11月11日



株式会社 東邦システムサイエンス

証券コード:4333 東証二部

# 目 次

## 会社概要

I . 平成21年3月期第2四半期業績

II . 平成21年3月期業績見込

III . 平成21年3月期下期経営方針

## 会社概要

- 【 設 立 】 1971年(昭和46年)6月
- 【 上場市場 】 東証二部 (2007年3月12日上場)
- 【 資本金 】 3億 7,698万円
- 【 事業内容 】
- |               |       |
|---------------|-------|
| 1.ソフトウェア開発    | 96.4% |
| 2.情報システムサービス等 | 3.6%  |
- 【 特 徴 】 金融コア型経営 (金融・保険 83.8% )
- 【 従業員数 】 468名 (平成20年9月末現在)
- 【 関連会社 】 株式会社ティエスエス・データ・サービス

# I . 平成21年3月期第2四半期業績

## 第2四半期の経営環境

- 第2四半期における日本経済は、米国サブプライムローン問題に端を発した世界経済の混乱により、原油、原材料価格の高騰から個人消費の低迷をまねき、景気の後退局面の色合いが濃くなる展開となった。
- 情報サービス業界においては、経済産業省の特定サービス産業動態統計によれば、当社が主力とする受注ソフトウェア売上高は平成20年4月～8月ベースで7.3%程度の伸展を記録している。

## 平成21年3月期第2四半期業績概要(対予想値)

(連結ベース、単位:百万円)

	期初予想値	平成21年 3月期第2Q	増減率%
売上高	4,114	4,040	△1.8
営業利益	445	472	6.3
経常利益	447	476	6.5
経常利益率	10.9%	11.8%	—
中間純利益	252	261	3.9
中間純利益率	6.1%	6.5%	—

## 平成21年3月期第2四半期業績概要(前年同期比)

(連結ベース、単位:百万円)

	平成20年 3月期第2Q	平成21年 3月期第2Q	増減率%
売上高	3,708	4,040	8.9
営業利益	438	472	7.8
経常利益	442	476	7.7
中間純利益	251	261	4.2
総資産	5,353	5,905	10.3
純資産	3,067	3,449	12.4

## 第2四半期ビジネスハイライト

### ■ 金融系ビジネスの伸展(ソフトウェア開発)

生保ビジネス 10億5,862万円(対前年比55.9%増)

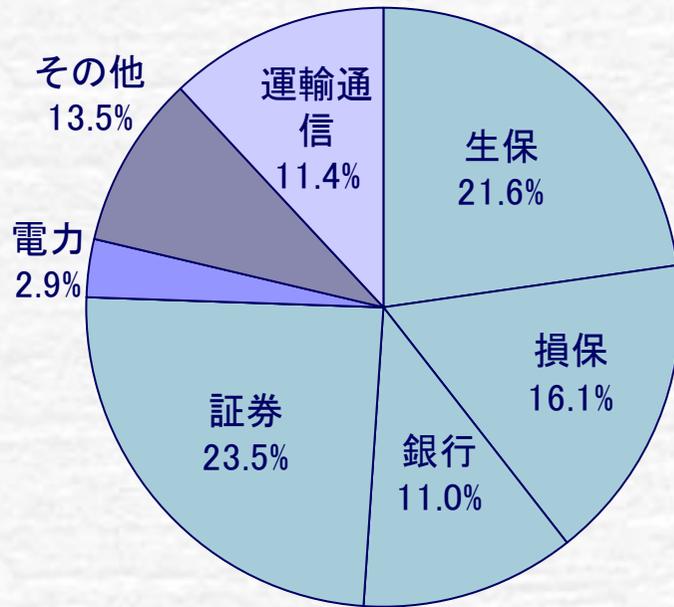
損保ビジネス 6億9,264万円(対前年比16.2%増)

証券ビジネス 9億9,482万円(対前年比17.0%増)

⇒NRIのe-eパートナーとして保険ビジネスが大きく伸展

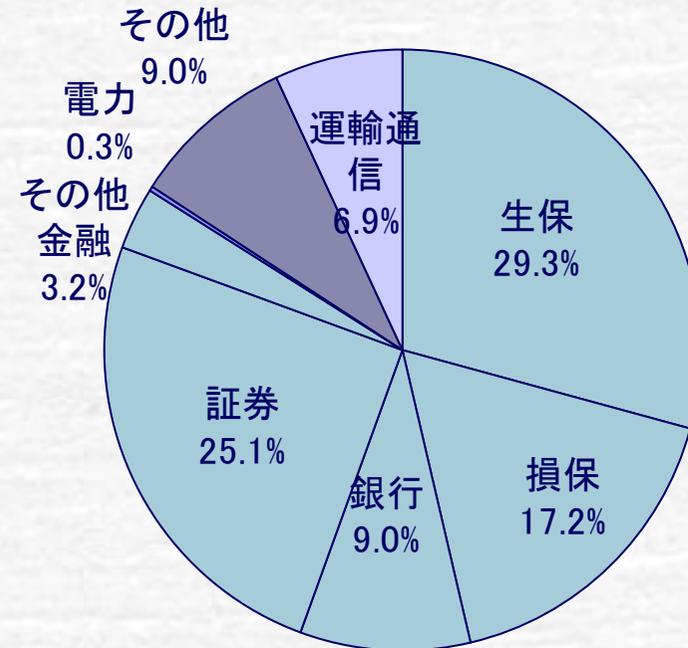
# 業種別売上高 (%)

<エンドユーザベース>



金融・保険: 76.8

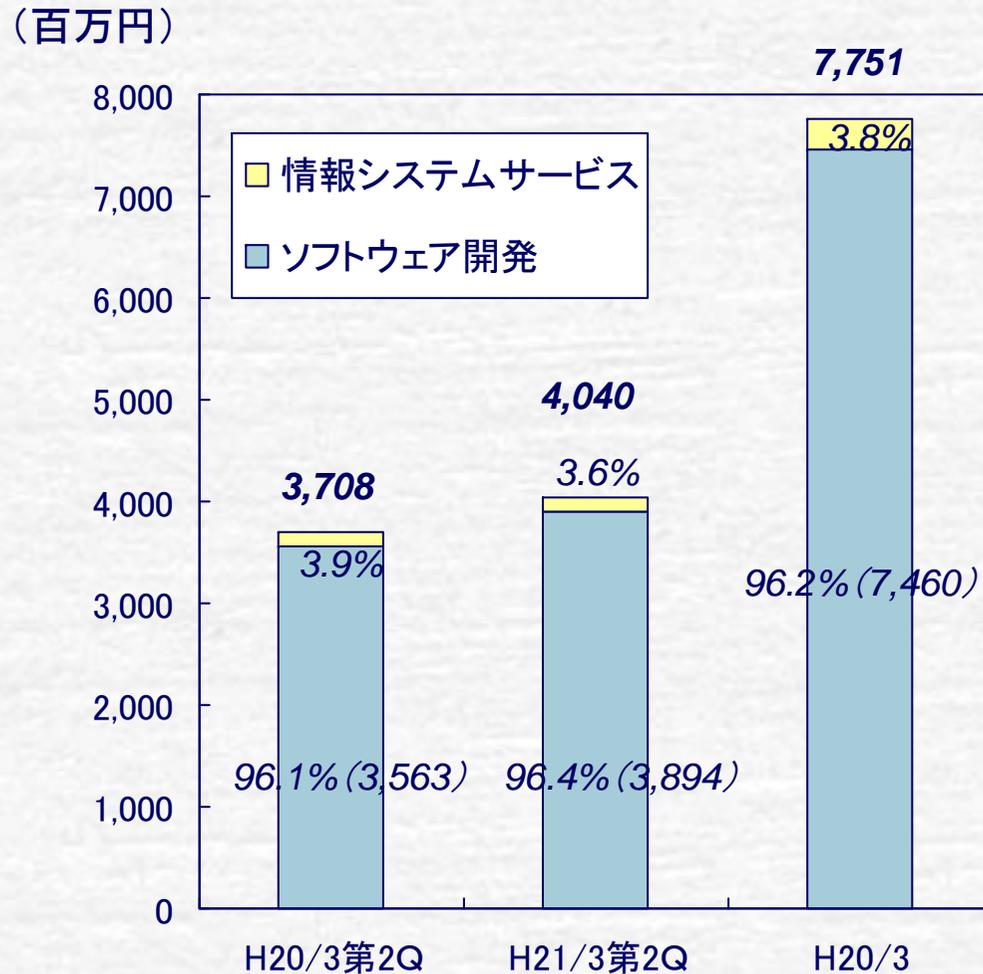
<平成20年3月期第2Q>



金融・保険: 83.8

<平成21年3月期第2Q>

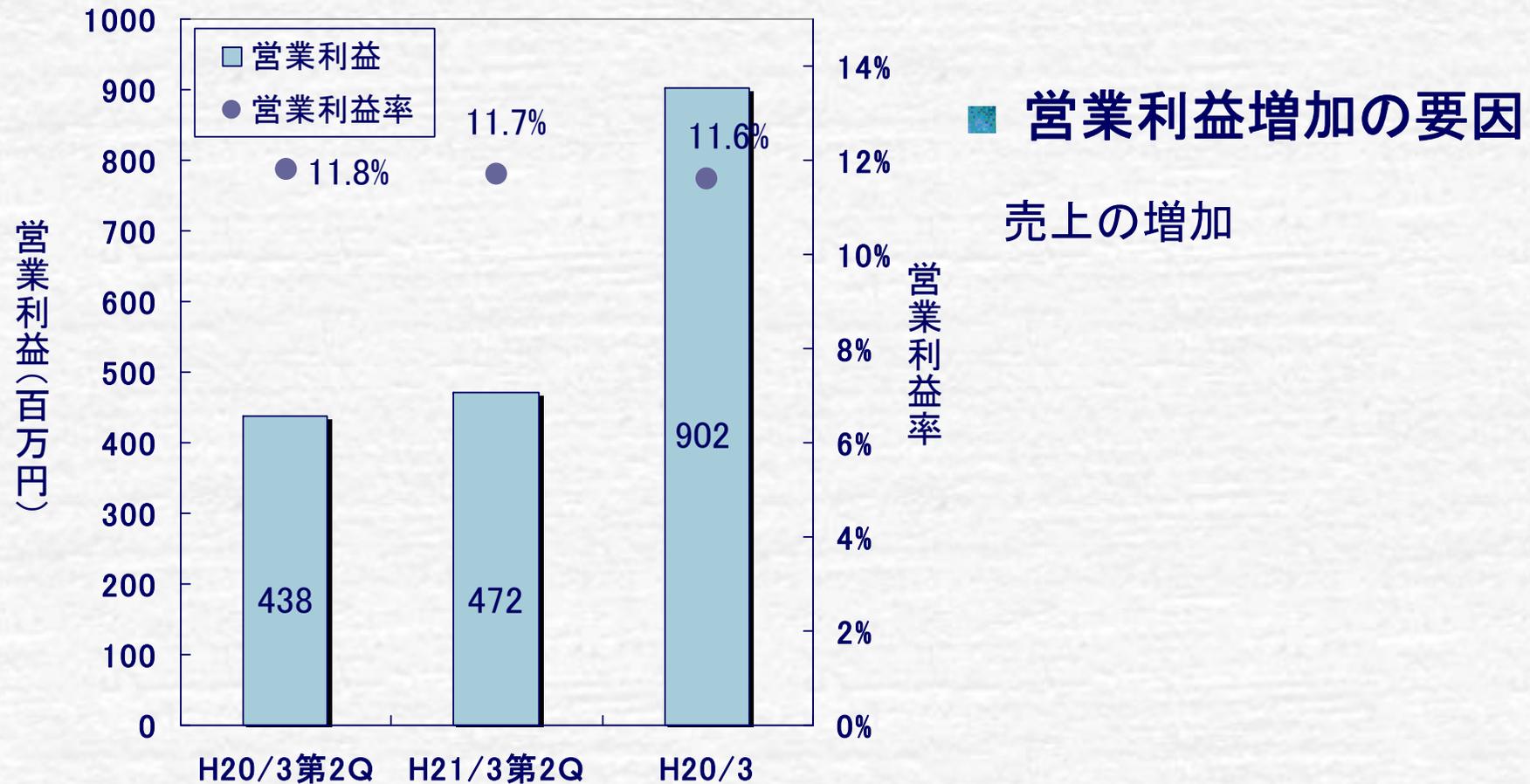
# セグメント別売上高



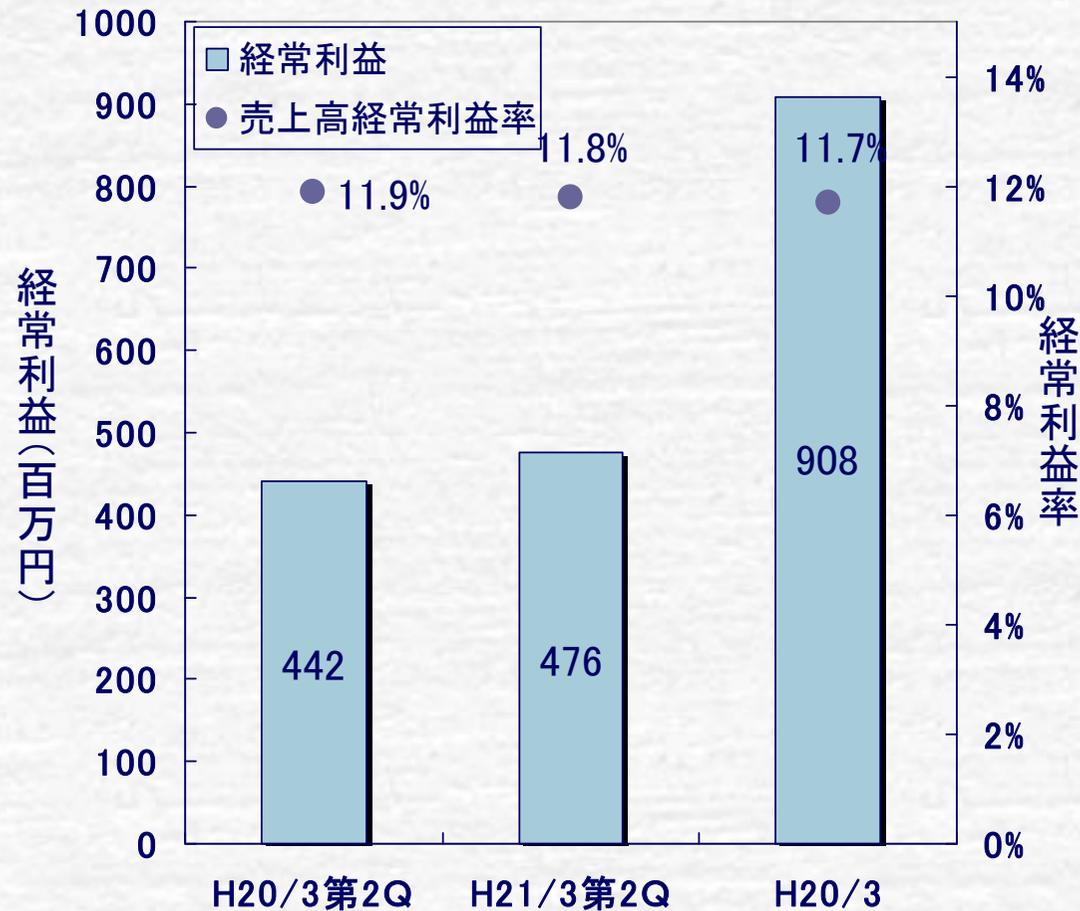
## ■ 第2四半期の主な売上先 (売上高上位3社: 構成比)

1. (株)野村総合研究所  
(1,418百万円、35.1%)
2. 富士通(株)  
(236百万円、5.9%)
3. 日本電算企画(株)  
(225百万円、5.6%)

# 営業利益・営業利益率



# 経常利益・経常利益率

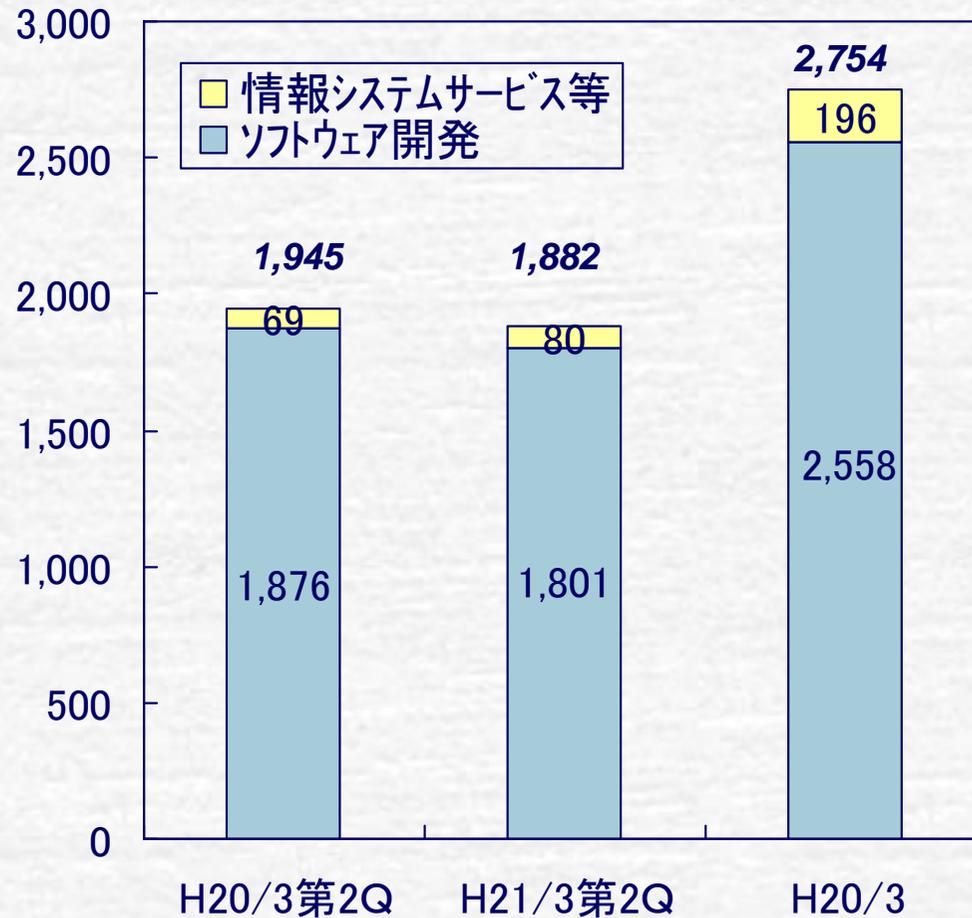


## ■ 経常利益増加の要因

営業利益の増加

# 受注残高

(単位:百万円)



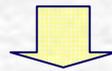
## ■ 受注残高の現状

前期並みの水準を確保

## 第二四半期経営ハイライト

### (株)野村総合研究所(NRI)との連携強化

平成16年3月NRIとe-パートナー契約締結



本年4月e- eパートナー契約を締結

### NRIと株式の持合

NRI ⇒ 当社発行済株式総数の2% (12万2700株)を取得

当社 ⇒ NRI の株式3万3千株を取得

# トピックス

日本経済新聞社が実施した、  
2008年度日経優良企業ランキングでランクイン！

総合ランキング	434位
成長力	168位
安全性	201位

(総合ランキングは、規模、収益性、安全性、成長力により評価される。)

\*日経優良企業ランキングは、多変量解析法による企業評価システムを使い、新興市場を除く上場企業2303社を対象に実施されたもの。  
昨年度は収益性の項目について、71位にランクされていた。

## Ⅱ. 平成21年3月期業績見込

# 平成21年3月期の経営環境

## ■ 日本経済

政府の10月月例経済報告では、「先行きについては、当面、世界経済が減速するなかで、金融危機の深刻化や景気の一層の下振れ懸念、株式・為替市場の大幅な変動などから、景気状況が更に厳しいものとなるリスクが存在する。」としている。

## ■ 当社主力市場－金融業界

10月発表の日銀短観においては、金融機関の情報化投資は保険業の伸びに支えられ、前年対比で6.2%の伸展が見込まれていたが、ここに来て、保険業においても開発案件の見直しの動きが出ている。

# 金融機関の情報化投資の動向

## (1) 生・損保業界

保険金不払い問題対応のシステム開発については避けて通れない問題であり、次期システムの開発と併せ、前年対比で唯一伸展が期待できる業界である

⇒ただし、金融危機後の状況は厳しさを増している

## (2) 証券業界

証券市場の低迷による企業業績の悪化から開発需要は一挙に減少

## (3) 銀行業界

情報系システム開発、web系システム開発(web-banking)などの需要はあるものの開発投資は伸びが鈍化

## 平成21年3月期業績予想(前年同期比)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
連 結	8,510百万円	950百万円	951百万円	531百万円	87.40円
増 減 率	9.8%	5.3 %	4.7 %	3.3 %	3.1 %
個 別	8,500百万円	942百万円	951百万円	534百万円	87.89円
増 減 率	9.8 %	5.5 %	5.3 %	4.3 %	4.0 %

## Ⅲ. 平成21年3月期下期経営方針

# 基本戦略

1. マーケティング
2. 人材の育成・確保
3. 社内運営管理
4. M&A業務提携
5. 企業統治・内部統制

# 1. マーケティング

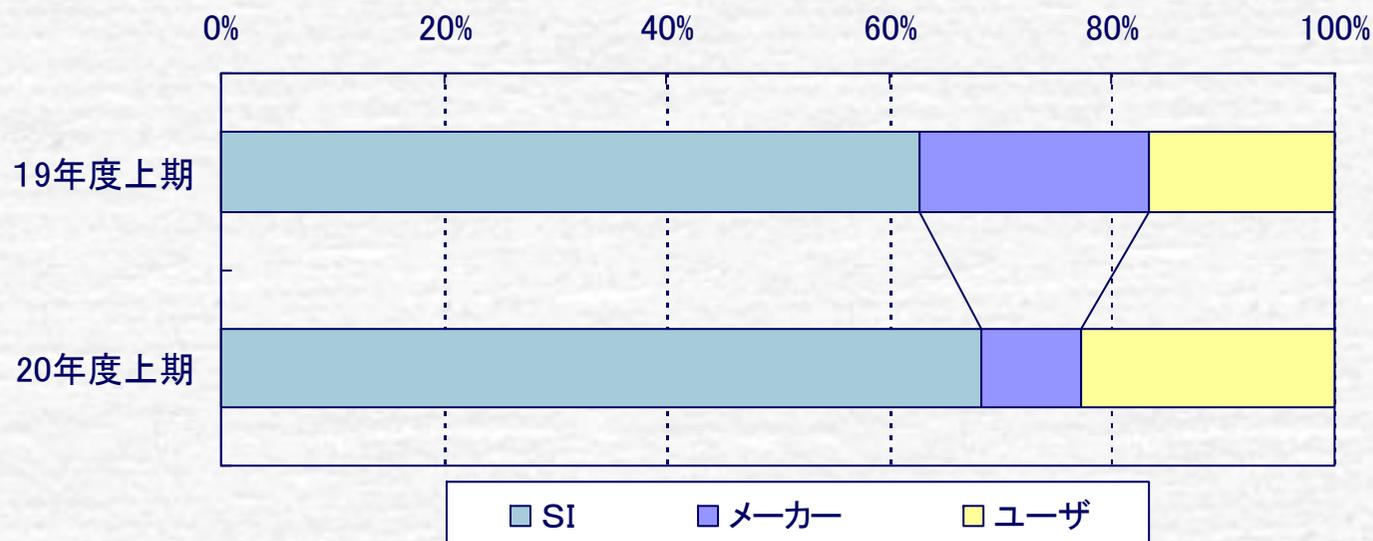
- 金融分野を中核とした市場競争力の一層の強化
  - 野村総合研究所(NRI)との連携強化  
開発業務革新推進会議を通じてNRIと協同で開発品質を向上
  - システム開発の上流工程であるコンサルティング分野を強化し、コンサルティングから設計、開発、運用、保守まで一貫したシステムソリューションを提供することで、金融システムインテグレーターとしての地位を確立する
- 新たな事業分野の確立、中核顧客の獲得
  - 当社のコアビジネスである金融業界向けシステム開発に並ぶ新たな事業分野の確立及び中核となる顧客の新規獲得
- SI、メーカー、ユーザとの均衡のとれた安定取引
  - 受注におけるリスクを分散し、安定的な業績をあげるためにSI、メーカー、ユーザのバランスを考慮

# SI、メーカー、ユーザとの取引状況

(ソフトウェア開発構成比 単位:百万円)

	SI		メーカー		ユーザ		合計
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	
19年度上期	2,235	62.7%	732	20.5%	595	16.7%	3,563
20年度上期	2,658	68.3%	347	8.9%	887	22.8%	3,894

受注先種別の構成比



## 2. 人材の育成・確保

- 「業務知識」と「IT技術」の両面を備えた技術者の育成に注力
- プロジェクトマネージャーの組織的養成  
⇒「プロマネを育てよう」運動の継続
- 新卒者の積極的採用とスキルの高い優秀なシステム要員の中途採用を図る

## 3. 社内運営管理

### ■ パートナー要員の確保

- パートナー要員の確保やコスト・生産性・情報管理などを徹底するとともに、適正な請負契約など、適切に協力会社管理を推進

### ■ プロジェクトマネジメントの強化・徹底

- PMO(プロジェクト・マネジメント・オフィス)、ISOの着実な展開
- プロジェクトの受注から納品にいたるまでの節目ごとのプロジェクト点検制度の完全実施による仕損防止

### ■ コンプライアンス、セキュリティ対応の徹底

- TSS企業行動基準に基づくコンプライアンス(法令遵守)を徹底
- 個人情報保護法対応として取得したプライバシーマークの更新、セキュリティ強化の継続による情報管理の徹底

## 4. M&A・業務提携

- 経営規模目標としての売上高100億円を目前に、さらなる経営基盤の強化を図る
- 今後も当社事業と相乗効果が期待出来る分野のM&Aならびに資本・業務提携、協業について継続して検討

重点市場： 金融関連市場（保険・証券・銀行等）

通信関連市場

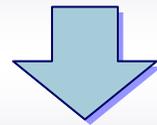
その他既存事業と関連する市場

重点技術： オブジェクト指向技術であるJava、UMLやLinux、XML、ネットワーク、データベース

## 5. 企業統治・内部統制

### (1) コーポレートガバナンスの実践

事業態様・事業規模に即したコーポレートガバナンスの実践

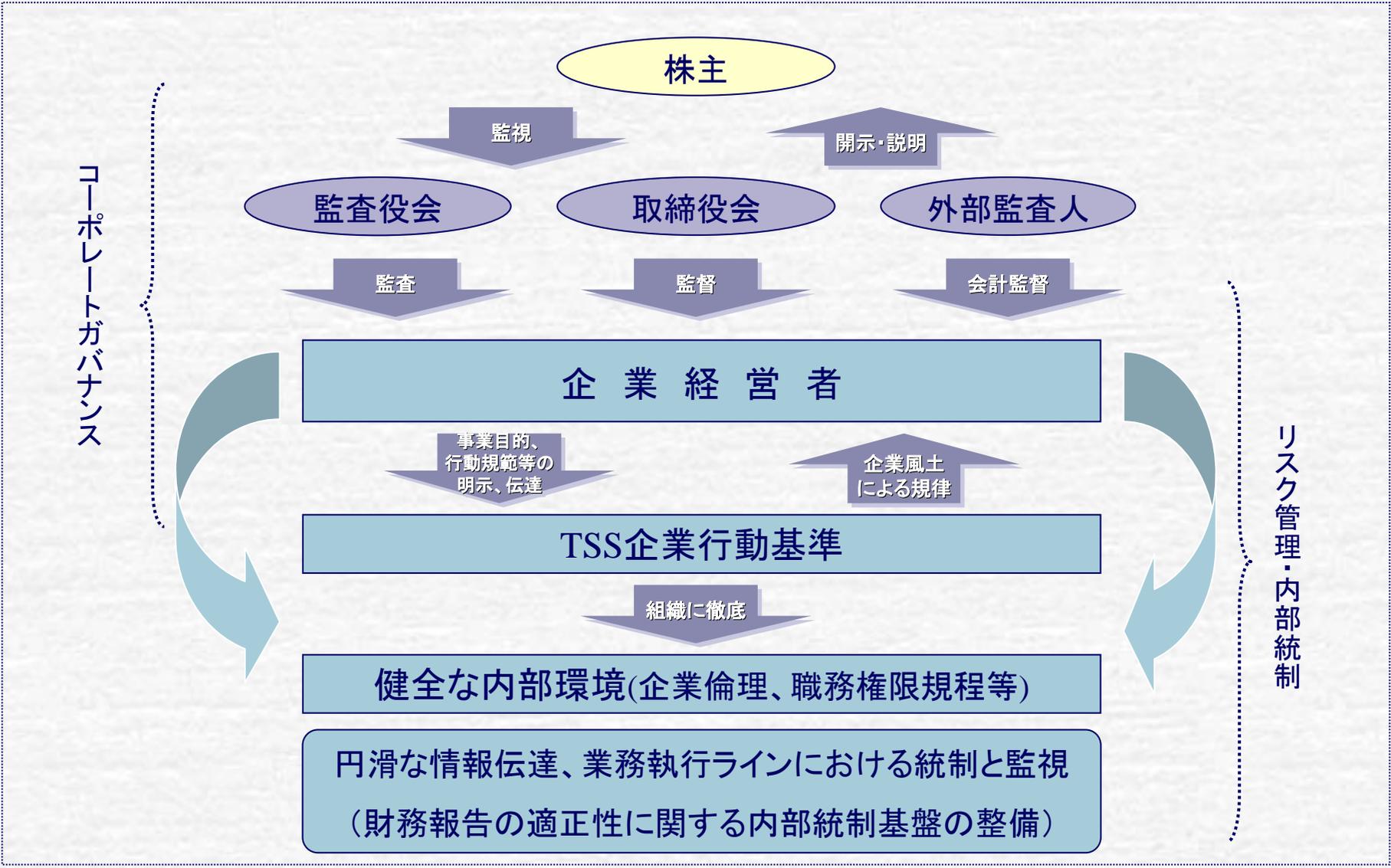


中長期的な安定成長、企業価値の増大

### (2) 内部統制システムの整備

TSS企業行動基準を定め、コーポレートガバナンス、リスク管理、内部統制の経営プロセスを整備⇒次頁会社統制プロセス図

<会社統制プロセス図>

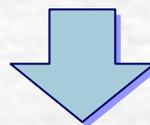


### (3) 株主還元の方針

- 会社競争力の向上
  - 企業価値の最大化
- 
- 株主各位への利益還元を図る

#### <利益配分>

- 平成21年3月期は普通配当年15円の予定



- 株主各位への長期にわたる安定的な配当
- 今後の事業拡大に向けた内部資金の確保



当期の財政状況、利益水準、配当性向

**最適なシステムソリューションを  
提供する高信頼度企業！**



**株式会社 東邦システムサイエンス**

## \* 本資料についてのご注意

本資料は、平成21年3月期第2四半期業績および今後の業績見通し、経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に記載されている株式会社東邦システムサイエンスの将来予想に関する事項は、現時点における情報に基づき判断したものであり、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により変動することがあります。

なお、いかなる目的であれ、本資料を無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。